

第26回徳島県芸術祭主催行事

第47回 徳島県美術展

■とき■

第1期/1992年11月7日(土)→12日(休) 第2期/11月14日(土)→21日(土)

■会場■

徳島県郷土文化会館

■主催■

徳島県美術家協会・徳島新聞社

徳島県芸術祭執行委員会

第2期

写真

書道

デザイン

美術工芸

彫刻

洋画

第1期

日本画



第47回

〈平成4年〉

徳島県美術展

作品集

日 本 画
洋 画
写 真
彫 刻
美 術 工 芸
書 道
デ ザ イン

主催

徳島県芸術祭執行委員会

徳島県美術家協会・徳島新聞社

審査員

(敬称略)

①住所 ②所属団体・役職名 ③経歴・受賞歴など。



【日本画】 稗田 一穂

①東京都世田谷区成城②創画会会員③東京美術学校(現・東京芸大)卒。創造美術奨励賞、長谷川仁記念賞、MOA岡田賞、日本芸術院賞恩賜賞など受賞。



【書道】 谷村 憲齋

①東京都港区西麻布三②財団法人書海社理事長、中京大学文学部教授③八三年第一回読売日本書法展準大賞など受賞。全日本書道連盟副理事長。



【洋画】 谷本 重義

①香川県綾歌郡国分寺町福家甲②自由美術協会会員③武蔵野美術学校(現・武蔵野美大)卒。第十六回安井賞など受賞。現在、高松市立美術館洋画講師。



【書道】 植村 和堂

①東京都荒川区西日暮里四②毎日書道会名誉会員③泰東書道院かな部最高賞など受賞。同院審査員のほか、毎日展審査員を連続二十一回務めている。



【写真】 立木 義浩

①東京都港区六本木三(徳島市出身)③東京写真短大卒。「典子は、今」「花気色一娘・おんなたち」「小柳ルミ子写真集」「最高の気分で一浜田朱里写真集」など写真集多数。



【書道】 太田 義久

①東京都板橋区蓮根二②創玄書道会理事事務局長③北海道学芸大札幌分校書道科卒。創展展文部大臣奨励賞など受賞。毎日書道展審査会員、近代詩文書作家協会理事。



【彫刻】 小島 弘

①神奈川県秦野市鶴巻九六三②二紀会常任理事③東京美術学校卒。二紀会文部大臣賞など受賞。岐阜「木刻フェスティバル」招待出品ほか。青山学院大名誉教授。



【デザイン】 勝井 三雄

①東京都渋谷区神宮五②日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)理事③東京教育大卒。「現代グラフィックデザイン大系CG論」(講談社)など著作多数。



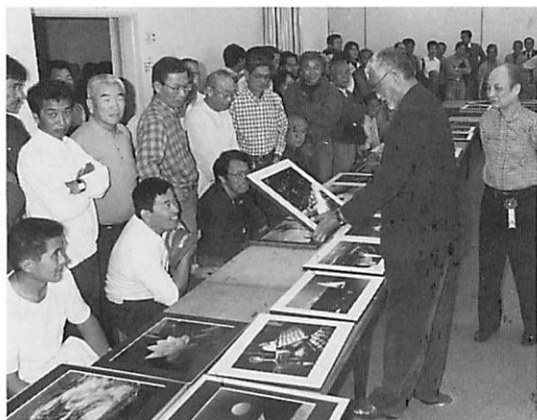
【美術工芸】 島田 文雄

①埼玉県川口市飯塚一②日本工芸会正会員、東京芸大陶芸講座講師③東京芸大大学院修了。日本工芸会賞、埼玉県知事賞など受賞。伝統工芸新作展審査員。

審査員総評

〈写真〉

審査員 立木 義浩
(写真家)



今という時代が作品に投影できているか——をポイントに審査させてもらった。応募作品は全般にまずまずの出来栄えという印象を受けた。しかし、単に美しい物の表面だけをとらえるのではなく、記念写真的な物でも、裏側に何かを感じさせる事が大切で、こうした作品を中心に選んだつもり。上位入賞作に優劣の差はほとんどないと思っていただきたい。今後のアドバイスとしては多機能・自動化したカメラをフルに自分なりに使いこなすことを心掛けてほしい。例えば「適正露出」とされる枠を超えることも力量飛躍の一步である。

徳島市長賞の中野建吉「出てきた女」は、女性が水面に顔を上げた瞬間を狙っているものの、楽しいはずの水遊びなのに、その表情に何か怖ささえ感じさせる作品。偶然の一枚だったかもしれないが、意外性といおうか、写真の面白さはこんなところにある。

特選の大野武「夜」(二枚組)は、カラーの時代といわれる中でシンプルな色でまとめている。対比することで、より色の面白さを表現している。

増田寿の「同窓会」は、会に集う女性たちが昼下がり公園のベンチに腰掛けた姿を追っている。しかし、よく見ると表情はバラバラ…。いろんな思いが伝わってくる。

船越正文の「赤い橋」は、赤という色はややもすると下品になりがち。また、こうしてつくり上げる作品は、一つ間違うとつまらなくなるものだが、それを全く感じさせない。労作を評価したい。

〈彫刻〉

審査員 小島 弘
(二紀会常任理事)



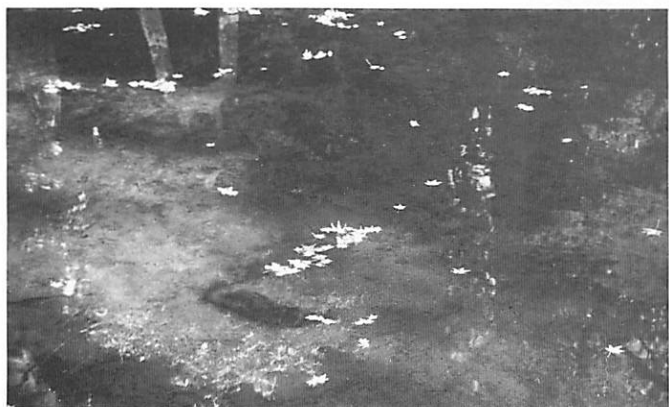
習作レベルの作品の出品があったものの、全体としてはまずまずの作品が集まった、という印象だ。応募作を具象、抽象に分けると、具象は、うまく作ろうという意図が勝ちすぎていて、自分の気持ちが出ていないものが多かった。抽象はコンセプトの良いものが見受けられたが、作品が小さくて力強さに欠けていた。

特別賞とした小林正則「立つ」は最初から目を引いた。非常に大らかで、コセコセとしたところがなく、女体の生命感にじみだしている点を評価した。具象作品の場合、表現がモデル

に引きずられがちになる。しかし本作品は、自分の考えをモデルを借りて具体化している点で群を抜いていた。

準特選の北島由美子「青年」は、女性が制作した男性像だが、体形やズボンの処理がうまくいっている。胸板の形があやふやなこと、顔作りがこせこせとしている点が欠点。寺井恭子「親子」は抽象作品のなかでは最も良かった。構成する面が明快で機能的にみて、むだがないことを買った。立体造形としてのオリジナリティーもあった。

写真



特別出品 流れ逝く 福島 正仁



招待 中耕 増田 清次

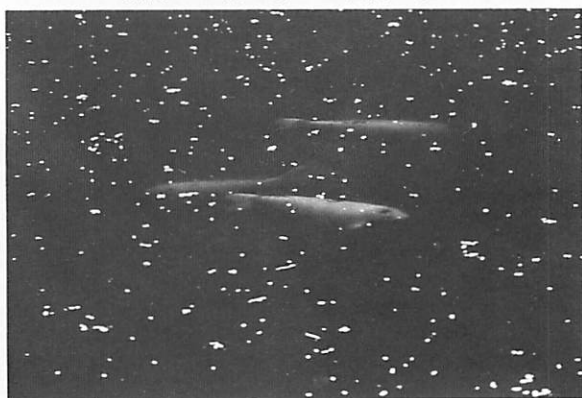


招待 雛供養 井上 光雄



招待 路傍 木田 英之

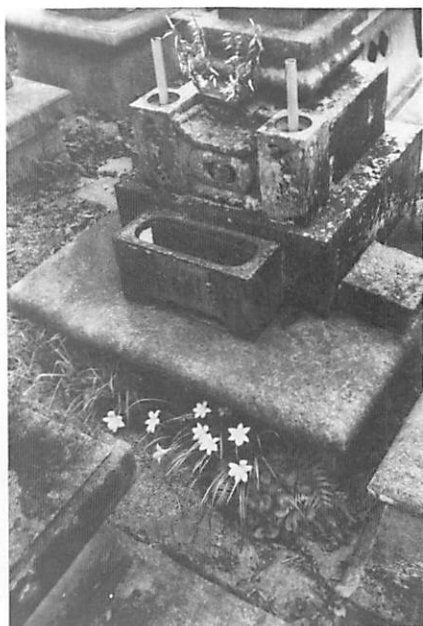
招待 沼の春 西條 征二



招待 自然花 藤井 梵



招待 秋さやか 勝西 雅夫





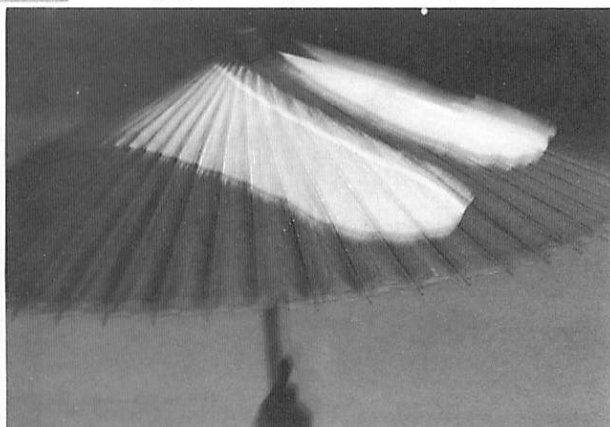
招待 秋色 武内 亨



招待 寂 笹田 敏雄



招待 高原の宿 榊 魏



招待 踊り傘 酒井 博司



招待 神話の森 三好 和義



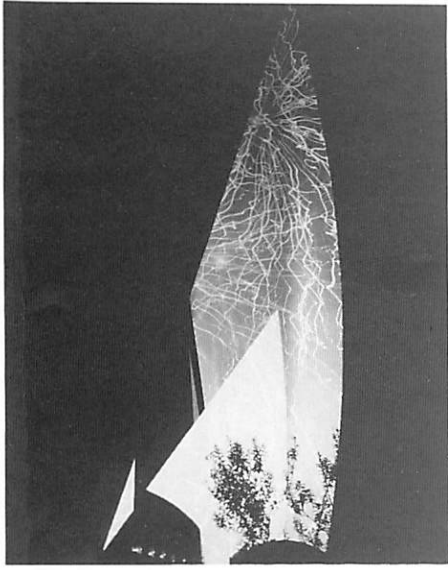
招待 樹影 上野 照文



招待 荒漠 森 賢一

招待 MEMORIAL 橋本 圭祐





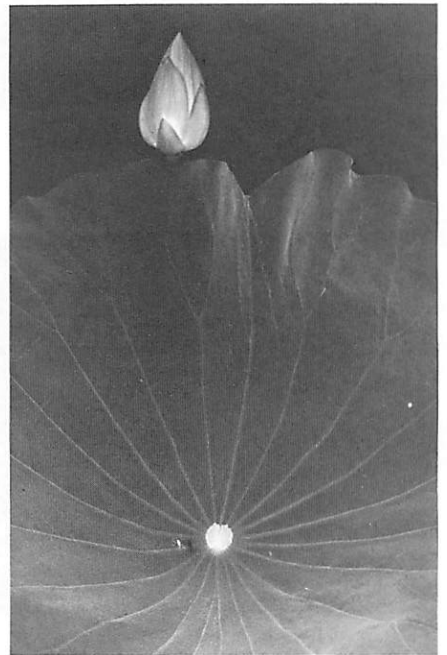
招待 夏の記憶 安長 剛



招待 教会のある街 荒井 賢治



無鑑査 夜 林 敏彦



招待 蓮 前浦 芳久



特選・徳島市長賞 出てきた女 中野 建吉



特選 赤い橋 船越 正文



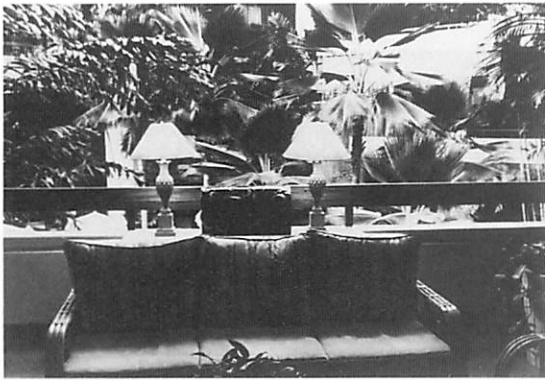
特選 同窓会 増田 寿



特選 夜(二枚組)



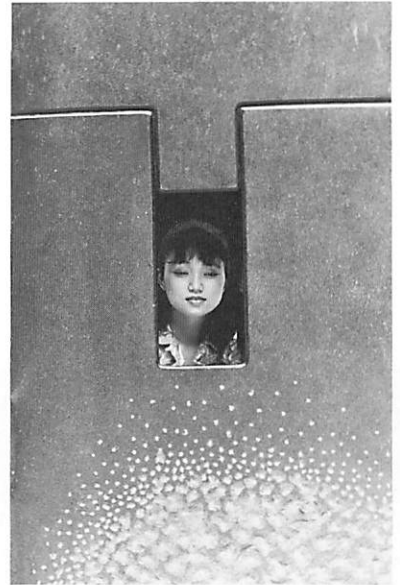
大野 武



準特選 南の風 (三枚組) 楢瀬 紳哉



準特選 少女 堀口 幸男



準特選 窓 川口 進



準特選 山羊 大和 健司